

企業を元気に、情熱系経営マガジン

「続く」極意

サステナブル社会にも対応した
紡績業で100年企業を目指す

比楽紡績株式会社
比楽 一郎さん

堺のイチオシ

次代に求められる
プラスチック部品の開発・提案を
大和合成株式会社

SAKAIの傑作

リアルガラスと本草の融合
アンティークドアをデザイン
株式会社 waji

SPECIAL FEATURE

今日から始められる 中小企業のSDGs

株式会社堀田ハガネ／下山商工株式会社

全社で取り組むSDGsは 次代に生き残る**指針**に

株式会社堀田ハガネ
代表取締役社長 堀田 靖

2015年9月の国連サミットで採択されたSDGs※。中小企業にとっても決して他人事ではありません。SDGsの取り組みが企業の社会的責任というだけでなく、事業の存続という点で重要な意味を持つからです。今回は、堺市内の2社の事例からSDGsに取り組む意義について考えます。

.....

含ニッケル鋼の在庫量は 業界トップクラス

特殊鋼のなかでも、さらに特殊な含ニッケル鋼などを販売・加工している株式会社堀田ハガネ。その在庫・売上は業界トップクラスを誇っています。とりわけニッチな鋼材であるニッケルクロム鋼(SNC鋼やニッケルクロムモリブデン鋼(SNCM鋼)を豊富に扱っているということで、問合せは全国から寄せられるとか。堀田靖社長は「他社があまり取り扱わないというのは、それだけ需要が少ないということですが、逆にどこでも取り扱っている一般的な鋼材は価格競争に陥りやすい。耐久性や耐摩耗性に優れているために、高い品質、高い性能を求められる部位に使用されるグレードの高いSNC鋼、SNCM鋼などは、回転率は悪いけれども利益率が高いのです」と語っています。



他社があまり取り扱わない回転率の悪い特殊鋼を豊富に取り揃えていることを強みとしている。

そして最近、力を入れているのが工作機械や産業機械の部品作りです。3年前に、廃業した会社を設備や技術者ごとそっくり承継。さらに製造設備を増強し、協力会社も得て、同社の大きな事業の柱として育てようと考えています。「材料の販売だけではなく、大手企業との取引は難しくなっており、材料を加工して製品にすることで取引の拡大を図りたいと思っています。将来の大きな戦力として新たに人材も採用、育成しているところなんです。中期的には、当社の売上の30%を占めるまでにしたいですね」。

地域の清掃やプルタブ集めなど 全社員の参加でできることから

同社では早くからSDGsに関心をもち、3年前にはプロジェクトを立ち上げていました。堺市の「さかい



「堺市まち美化促進プログラム」に参画している団体であることを示すアダプトサインが、石津川駅と本社近くに設置されている。

SDGs推進プラットフォーム」には設立前から声をかけられ、設立と同時に参加しています。堀田社長は「当社が目指す、人を大切にする、人本経営とSDGsには共通すること、がたくさんあると思ったことから興味を持ちました。例えば、7、8年前から5つあるグループのうちの2つで、女性の管理職を登用していますが、それもSDGsの目標の一つにあることです」と語っています。

「リーダーとして人を巻き込んだり、まとめたりするのが上手いから」と堀田社長がSDGsを推進するプロジェクトリーダーに任命したのは、業務部の中谷建太氏です。「メンバーには、営業や製造現場、総務など各部署から1名ずつを選出。まずはSDGsについてのセミナーを受け、大手企業さんがどのような取り組みをされているのかなどを勉強しました。その中で当社ができることから

※SDGs(Sustainable Development Goals)・・・2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標。17のゴールと169のターゲットから構成される。

やっというスタートしたのです」
(中谷氏)。

いざ始めてみると、「あんなこともできる、こんなこともできる」と活動はどんどん広がり、現在は、もともと堀田社長が10年ぐらい前から関わっていた北海道のクッチャロ湖の保全活動に全社で取り組むことになったほか、全社員で月2回、石津川駅と会社周辺の清掃活動の実施や、車椅子を寄贈するためのプルタブの収集、加えてネーム入りタンブラーを使用することで、ペットボトルの利用の削減にも努めているそうです。日々

の業務に関わるところでは、可能な限り環境に優しい素材の部品を調達したり、CO₂の削減を意識した処理方法を選択したりといった取り組みを行っているとか。「社長や取締役といった経営陣から率先して活動に参加してもらっているのが、社員にとってもやらされている感がないんです。もちろん、日頃からSDGsを意識するような仕掛けもしています」と中谷氏。厚生棟の階段の一段一段に自分たちの取り組みを掲示しているほか、工場内の各所にもSDGsの17のゴールが掲げられていました。

脱炭素社会の実現に向けて 危機感をビジネスチャンスに

中小企業がSDGsに取り組む意義について、堀田社長は「当社がいち早くSDGsに取り組んでいることは、得意先にも大きなアピールになっています。ヨーロッパではすでに、SDGsに取り組んでいない企業との取引は行わないという動きがあり、今は大企業が対象でしょうが、やがて中小企業にも波及してくるでしょう。もはや我々にもSDGsは無視できないものなのです。SDGsと聞けば構えてしまいそうですが、17の目標と169のターゲットを一つひとつ見ると、当社の照明のLED化のようになすにやっていたことや、すぐにも取り組めることがたくさんあります。そのどれか一つからでも始められ

ば、自然と次のステップに進んでいくと思いますね。ただ、前文に書かれているSDGsの基本理念をきちんと理解して取り組むことは大事だと思います」と語っています。

また、SDGsをとりまくグローバルな動きの中で本業においてもビジネスチャンスを作っていきたいと語る堀田社長。「当社は石油化学プラント関連の製品が多いですが、化石エネルギーが水素燃料や太陽光などに取って替わっていくことに大きな危機感を抱いています。ガソリン車の部品製造も脱炭素社会の実現を目指すと考えた2050年にはゼロになっているでしょう。次代に生き残っていくためには、当社も得意先企業とともに新エネルギーの分野へ進出していきたくと考えています。まずは太陽光発電システムを当社でも導入する予定です」。



最新鋭の機械を導入し、機械加工事業も大きく成長させる計画。

株式会社 堀田ハガネ

代表者名/代表取締役社長 堀田 靖
本社/堺市西区築港新町3-19-2
TEL/072-244-0011
設立/1956年創業 1959年設立
資本金/4,000万円
従業員数/41名
事業内容/特殊鋼・ステンレス鋼
全般の販売および加工



(株)堀田ハガネ
ホームページ



成功のポイント/ ニッケルクロム鋼・ニッケルクロムモリブデン鋼というニッチ分野に特化し、他社と差別化した手堅い経営を行う傍ら、他社に先駆けて取り組んだSDGsでは、次世代への切り口と捉え、できることから一歩ずつ取組を始め、今では社長以下全社員で楽しみながら実践しています。

強みの複合材料接合技術で 廃棄される端材を新製品に

下山商工株式会社
代表取締役 藤永 誉

**強度の向上やコストの低減が
目的だった接合技術**

社名に「商工」とあるのは、1959年の創業当時は工場で使用する備品を仕入れて販売する事業も行っていたからという下山商工株式会社。現在は、鉄やステンレス鋼、アルミ、真鍮といった金属や樹脂の切削加工を行っているほか、そうした加工技術を活かして、蒸気・温水全自動洗浄機や超音波洗浄機、攪拌機スピード切替装置などカスタムメイドの機械を製造・販売しています。このように設計から加工、組立までを社内で一貫生産できることが同社の強みです。

そうしたなか、最近、新規事業として同社が注力しているのは、「iZ Ai」と名付けた複合素材を特殊接合する技術です。「もともとは、磨耗の激しいカッターの刃の先端部分だけに高価な超硬合金を接合することを提案し採用されたことがきっかけでした。刃の強度を格段に向上させながら、コストを抑えることができ、さらにいろいろな素材や用途に展開できるのではと考えたのです」と藤永誉社長。アルミと真鍮、鉄とステンレスといった金属同士のほか、金属と樹脂、ガラスと樹脂、金属と石など異素材を接合し一括加工する技術は、素材に合わせた接着剤の選定と、強固に接合させるための表面処理法など、同社が独自に獲得



容器に付着した臭気を除去する温水蒸気洗浄機「エコウォッシュ」。温水・蒸気・乾燥を全自動で行う。

したノウハウから生まれたものです。プロモーション用に接合された鉄のサンプルは、接着面がわずか1cmながら800kgの荷重をかけても耐えられるそうです。

この「iZ Ai」の技術を活かし、異なる素材を組み合わせたインテリア用品を店舗や宿泊施設向けに開発、同社のオリジナルブランドとして来春に発売開始の予定です。それに先駆け年内に発売が予定されているのは、人工大理石と金属を組み合わせた盆栽用鉢で都会的なデザインが目を引きまします。ここで使われている人工大理石は、システムキッチンの天板などに使用されたものの端材で、多額な処分費をかけて廃棄されていたといいます。「環境問題を認識しながらも、一方で再利用されないまま廃棄されている端材がたくさんあります。iZ Aiの技術を使って、それらを再利用できないかと考えています」。



今では得意の金属や樹脂だけでなく、人工大理石の切削もこなしている。写真はNCフライス盤による穴あけ加工。

**関心のあつた環境問題を入口に
持続可能な生産を考えて**

堺市がSDGsの達成に向けた取り組みを推進するために、今年5月に設立した「さかいSDGs推進プラットフォーム」。現在、307（9月10日現在）の会員が参加しており、下山商工もその一員です。

「たまたま、街でばったり会った堺市の職員の方にこのプラットフォームのことを聞き、その日のうちに参加を決めました」と藤永社長。20代の若い頃から沖縄県の宮古島でスキューバダイビングのガイドをしたり、国際イルカ・クジラ会議に出席したり、イルカと泳ぐために東京都の御蔵島へ通ったりしたこともあるといい、地球環境や特に海洋生物への関心が高かったそうです。

「ドキュメンタリー番組で観た、ウ

ミガメの鼻にプラスチックのストローが刺さっている映像は衝撃的でした。何ができるのかはわかりませんが、まずは、できることから始めてみようと思っただけです。廃棄物を少しでも減らすという観点から、人工大理石の端材を活用することもその一つです。SDGsのことを広く知ってもらおうと、周囲の経営者仲間と声をかけ、堺市の方を招いて勉強会を開催したこともあります」。

藤永社長は「奉仕活動として、水の衛生状態が良くないというタイへ浄水器を贈っています。SDGsという言葉が馴染みにくいのか、この国際的取り組みについてはあまり認識されていない。私自身も芸人さんが楽しくわかりやすくSDGsについて紹介するイベントなどに出かけて、ようやく理解したぐらいです。しかし、実はすでに何かしら取り組んでいることが、SDGsだったこともありま

す。まずは私のように、興味を持つことからスタートしてみてもいいと思います。確かに企業活動、なかでも我々の製造業は油を大量に使うし、廃棄物も出す。SDGsに逆行していると考えられがちですが、だから何番の目標は無理とか決めつけずに、広い視野で日々の活動を振り返ってみることが大事かなと思いますね」と語っています。

廃棄物とクリエイターを結んでWIN×4を目指す

SDGsの取り組みから始めて、藤永社長には今、大きなビジョンが2つあります。一つは、人工大理石の端材を活用した盆栽鉢「Hachi for BONSAI」を世界に向けて売り出すこと。素材を再活用した製品であるというだけでなく、盆栽という日本の誇れる文化・芸術を世界にさらに発信したい考えです。そのために関西広域連合が今年10月にパリで行うテストマーケティングへの参加を申請しているところ

です。そしてもう一つは、大量に廃棄される端材と、それを使って制作活動を行いたいクリエイターとを結ぶプラットフォームを構築することです。

「お金をかけて廃棄している企業にも、作品作りのために素材を購入しているクリエイターにも、そして廃棄物が減ることで環境が守られる地球（そこに暮らす人類）にも良いWIN×3の方程式が成立すると思うんですね。そして、制作された作品の販売支援は当社が担おうかと考えています。オンラインでの販売だけでなく、ギャラリーを兼ねたりアルな店舗で実際に手にとってもらって購入いただく。それで当社にも利益が出れば、WIN×4ですね」と藤永社長。「お金をかけて産業廃棄物を処分されている企業の方には、ぜひご一報いただければ、お役に立てることがあるかもしれません」と呼びかけています。



リユースした人工大理石の端材と真鍮や銅と接合させた盆栽鉢「Hachi for BONSAI」。

下山商工株式会社

代表者名／代表取締役 藤永 啓
本社／堺市堺区向陵中町1-5-5
TEL／072-252-7731

設立／1959年設立
資本金／1,000万円
従業員数／9名

事業内容／複合材料接合、蒸気・温水全自動洗浄機、攪拌機スピード切替装置、全自動蒸気煮沸洗浄機などの機械の製造・販売



下山商工(株)
ホームページ



成功のポイント／

素材を再活用した新製品「Hachi for BONSAI」を世界に向けて売り出すことや、企業とクリエイターを繋ぎ地球環境保全とそこに暮らす人類に貢献する「WIN×4」のプラットフォームづくりなど、熱い想いをもちながら出来ることから着実に取り組んでいる藤永社長の経営姿勢が多くの共感を得ています。

高精度・高品質の求められる 重要な部品作りを担い続けて

今日ほどプラスチック製品が一般的でなかった1939年の創業時より、これからは樹脂の時代だと、電気機器の絶縁部や航空機・自動車関連のプラスチック成形品の製造を担ってきた大和合成株式会社。「先代の時に世界初のオートフォーカス一眼レフカメラの開発に関わったことで、金型や材料についての知見も深め、さらに技術力を向上させることができた」と奥野健太郎社長は語っています。プラスチック素材の熱可塑性と熱硬化性という2つの特性を知り尽くした成形メーカーとしての強みを活かし、現在はシビアに品質や精度、安全性の求められる自動車や二輪車の重要保安部品や、電気電子部品、光学機器部品、医薬品・化粧品容器などを製造・販売しています。

バイオマスプラスチックの実用化や 車載用プーリーの樹脂化を実現

プラスチック成形メーカーとして同社の強みは材料の選定から形状の提案、そして試作、量産、組立までを一貫して対応できる総合力です。なかでも開発・提案力に優れ、これまでも従来は金属製だった車載用プーリーの樹脂化を実現。大幅な軽量化や低騒音化に貢献しています。

「昔から熱硬化性樹脂を扱うなかで材料メーカーとの信頼関係があり、新しい材料の情報をいち早く入手できるのも当社の強みです。今日、ストローやレジ袋などプラスチック製品への風当たりが強くなっていますが、一方、このたびのコロナ禍で不織布マスクや医療用品、ワクチン接種のための注射器も全て樹脂製です。まだまだ欠かせない素



自動車のテンションプーリーやIT社会で不可欠な電気・電子部品など、精度の求められる製品作りを得意とする。



ハノイ工場の従業員の皆さんと（2列目右から3人目が奥野社長）。

材であり、それをうまく利用していくことが我々人間の責任だと思いますし、日本のものづくりならそれが可能だと思いますね」と奥野社長。将来的には、リサイクル技術や生分解性プラスチックの進歩が考えられるといえます。

同社では、竹繊維や竹粉を汎用性樹脂に混ぜて成形する技術を10年以上前に実用化させ、すでに製図用三角スケールなどで量産の実績もあります。「精度や耐久性、安全性の求められるところでの利用は難しいですが、お客様の選択肢の一つとしてご提案しています」。

金属3Dプリンターによる金型の 新たな可能性に期待

創立100周年にあたる2039年に向け「プラスチックのことならまず大和合成と言ってもらえる“ファーストコールカンパニー”を目指す」と「2039ビジョン」を掲げる奥野社長。宮崎工場とベトナムにある2工場のマ



金型内で起こりうるさまざまな現象を3Dで確認することができる「流動解析ソフト」を使い、高品質な製品作りを実現。

ザー機能を果たすべく、堺の本社工場を研究開発拠点と位置付け、これからはプラスチック素材の新たな可能性を追求していく考えです。

例えば、近く国の補助金を活用し、金属3Dプリンターを使つての金型部品製作の研究開発に着手する予定で、この研究を進めることでこれまで難しかった金型冷却構造を量産金型へ実用化し、より高精度、高品質で歩留まりの良い製品作りを提案できると奥野社長の期待は高まっています。

活用した事業メニュー

■ビジネスマッチング事業

プラスチック素材について具体的な課題を持つ企業を紹介されるので、新たなビジネスに結びついている例が少なくありません。

■各種セミナー

DXをはじめ、健康医療、産業技術といったテーマのセミナーに参加しています。

■各種制度の情報提供

適宜、提供される補助金制度などの有益な情報を活用しています。

大和合成株式会社

代表者名／代表取締役社長 奥野 健太郎
本社／堺市北区東三国ヶ丘5-1-10
TEL／072-252-1023
設立／1939年創業
1943年設立
資本金／2,400万円
従業員数／30名
事業内容／各種合成樹脂
成形品の製造・販売



大和合成株式会社
ホームページ



次代に求められる プラスチック部品の開発・提案を

令和3年度 ものづくり経営大学

～「どこから見ても誰から見てもいい会社」のつくり方を学ぶ講座～開講のご案内



本講座では、八方よし※1を実現する会社を「いい会社」と定義し、最終的にはどこから見ても、だれから見てもいい会社の基礎を作ること为目标に開催します。

※1 八方よしとは、1社員、2社員の家族、3取引先社員、4取引先社員の家族、5お客様、6地域・社会、7経営者、8株主を指します。

具体的には、いい会社づくりを先んじて実践しているモデル企業から肌感覚で学べる機会（企業訪問・経営者講話）と経験・知見を豊富に持つ講師によるレクチャーの機会を用意し、いい会社をつくる為の「あり方」と「やり方」の両方をバランスよく習得できるプログラム構成となっており、受講企業には、日本でいちばん大切にしたい会社大賞※2を受賞できるレベルのいい会社づくりを目指していただきます。

別途、受講企業の個別フォローや補講も用意し、いい会社づくりに向けた取り組みの徹底したサポートを行います。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

講座の詳細及びお申し込みはこちら

<https://www.sakai-ipc.jp/news/seminar/3-2.html>



※2 日本でいちばん大切にしたい会社大賞

<https://taisetu-taisyo.jimdofree.com/>



産業技術セミナー【オンライン開催】

地方独立行政法人大阪産業技術研究所の協力を得て、加工技術の開発や課題解決、新技術開発等を目的としたセミナーを開催します。関心のあるテーマのみの受講も可能です。

①10月19日(火) 15:30～17:00

「抗菌・抗ウイルス技術 ～基礎から最新技術まで～」

大阪産業技術研究所

応用材料化学研究部 主任研究員 井川 聡氏

②11月2日(火) 15:30～17:00

「デジタルものづくり [CAD/CAE/AM] 技術 (プラスチック製品分野を例に)」

大阪産業技術研究所

加工成形研究部 主任研究員 吉川 忠作氏

③11月30日(火) 15:30～17:00

「金属破断面解析の高度化に向けた取り組み

～深層学習や画像処理技術を活用した解析技術の開発～」

大阪産業技術研究所

金属材料研究部 主任研究員 濱田 真行氏

詳細及び申し込みはこちらから⇒

<https://www.sakai-ipc.jp/news/seminar/post-473.html>



「ものづくり経営大学」と「産業技術セミナー」のお問い合わせ先 公益財団法人堺市産業振興センター 経営支援課

TEL 072-255-6700/FAX 072-255-1185/Email keiei_shien@sakai-ipc.jp

「地方独立行政法人大阪産業技術研究所」は 中小企業の方もご利用いただけます！

ご利用いただけるメニュー

技術相談：幅広い技術分野の専門研究員を配置し、相談をお受けしています。

依頼試験・簡易受託研究：材料・部品の各種試験、分析、加工などを行います。簡易受託研究では、複数の試験や分析及び加工を組み合わせ、課題の解決を図ります。

装置使用：和泉センターが保有する高機能な機器等のうち、取り扱いが容易な機器等をご利用いただけます。

その他のメニュー、詳細はこちらをご確認ください。

⇒ <https://orist.jp/riyou-annai/izumi/syoshinsya.html>



お問い合わせ先 大阪産業技術研究所 本部・和泉センター

〒594-1157 大阪府和泉市あゆみ野 2-7-1 技術相談・総合受付：0725-51-2525

当センターホームページにDX導入支援事例を掲載しました。

IPC スマートものづくり導入支援センター

中小企業デジタル化・自動化促進支援事業

変化への対応力 + 仕事の効率化

堺市産業振興センター「中小企業デジタル化・自動化促進支援事業（IPCスマートものづくり導入支援センター）」のDX導入支援事例として、境川工業(株)、(株)テクノタイヨー、(株)堀内機械の3社の事例を掲載しました。是非ご覧ください。

尚、本事業の支援の内容及び申込は下記URL又はQRコードから

<https://www.sakai-ipc.jp/bizsupport/management/ipc.html>



事例1：境川工業(株)様 https://www.sakai-ipc.jp/keiei/DX_01.pdf
ホームページと動画を使って自社の強み(新工場)をアピールする



事例2：(株)テクノタイヨー様 https://www.sakai-ipc.jp/keiei/DX_02.pdf
お客様の行動想定を軸にHPとWeb動画を強化



事例3：(株)堀内機械様 https://www.sakai-ipc.jp/keiei/DX_03.pdf
動画等のWebコンテンツの充実により製品(特に新製品)の魅力を非対面で伝える



貸会場のご案内「イベントホール・セミナー室・会議室」

- イベントホールをはじめ、コンベンションホール、大小会議室、セミナー室、小ホールなど、幅広く対応可能な14会場をご用意しています。会議、研修会、講演会、展示会、パーティなど様々な用途でご利用いただけます。空き状況はインターネット上（堺市施設予約システム）でご確認いただくか、お電話でお問い合わせください。
- 昨年、イベントホールにおいて照明器具のLED化、壁や天井の塗り替え等を行いましたので、以前より明るい印象のホールになりました。ぜひご利用ください。

【利用時間】 9:00～21:00

【休館日】 年末年始（12月29日～翌年1月3日）

【駐車場】 約230台（無料）

【最寄り駅】 中百舌鳥（なかもず）駅から約300m

堺市産業振興センター 貸会場お問い合わせ先

TEL 072-255-0111

ホームページ <https://www.sakai-ipc.jp/>



イベントホール（展示会形式）



セミナー室3（スクール形式）



ミーティングルーム（会議形式）

中小企業を
全力応援



公益財団法人

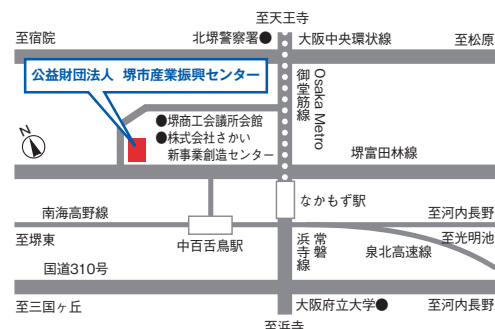
堺市産業振興センター

堺市産業振興センターでは、経営相談や技術開発支援、各種セミナーなど研修に関する事業、堺市内中小企業に対する融資関連事業、地場産業の紹介・製品展示・販路開拓に関する事業、情報誌やホームページ・メールマガジンなどによる産業情報発信、イベントホールや会議室などの貸出事業と多種多様なサービスでビジネスをサポートしています。

〒591-8025 堺市北区長曾根町183-5

TEL.072-255-3311(代) FAX.072-255-5200

<https://www.sakai-ipc.jp/>



●南海高野線中百舌鳥駅より約300m ●Osaka Metro御堂筋線なかもず駅より約300m ※駐車場は、隣接の来客用駐車場（無料）がございますが、できるだけ電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

サステナブル社会にも対応した 紡績業で100年企業を目指す

取締役 統括部長 **比楽 一郎** さん



(比楽 一郎 取締役 統括部長)

比楽紡績株式会社

堺市南区原山台5-16-1 TEL.072-297-5571

代表者名／代表取締役社長 比楽 卓郎

設立／1917年創業 1940年設立

資本金／9,000万円

従業員数／51名

事業内容／敷物用・衣料用原糸の製造・販売



比楽紡績(株)
ホームページ

1917年に糸商として創業、1940年から紡績工場の操業を始めている。カーペットや衣料など製品のニーズにあわせて原毛の配合や撚数を設計する提案力に定評があり、同社独自のノウハウが生きる難燃性のウールは数多くの航空機で採用されている。



大

学生の時に1ヶ月間、ニュージーランドに行かされたことから、自分に経営承継させるつもりなのだと思ったという比楽一郎統括部長。「就職活動もせずに悠長にしていたところ入社の話はなく、広告代理店に勤めたのち、入社は2001年です。まず

1年間、ニュージーランドで語学と紡績を学んだ後、イギリスで語学研修の傍ら、糸のサンプル作りを手伝ったりしました。帰国後にタフト加工業の会社に2年間勤めましたが、この時に得た化繊関係のネットワークが今も役立っています」。

堺市産業振興センターののづくり経営大学などを受講。まだ承継の予定は決まっていないようですが、最近では買い付けから得意先との商談はもちろん、自らの考えで立ち上げた新規事業についてもその経営のほとんどを比楽統括部長が担っています。

「創立80年を超えて、事業を存続させる責任の重さを感じますが、100年企業を目指す、若い人材を積極的に採用するなど体制作りは着実に進めています。ウールの需要は減るかもしれませんが、紡績業から離れるつもりはありません。最近では、ウール以外の化学繊維を活用した新製品の開発にも取り組み始めています。SDGsという観点から、素材のウール、ナイロン、ポリエステルにリサイクルされたものを使用するサステナブルウール素材を「REWOL®」として商標登録し、まずはアパレル向けに販売を開始し、インテリア向けにも提案しています」。

親族間での円滑な事業承継に大切なのは親密な関係づくりだと語る比楽統括部長。未来の後継者である高校生の長男とは良好な関係で、創立百周年での経営承継に期待しています。



堺のものづくりから生まれた逸品

SAKAIの傑作

リアルガラスと本革の融合 アンティークドアをデザイン

ヨーロッパの街角で見かけるようなステンドグラスの入ったアンティークドア風スマホケースや財布、小物などは、株式会社 waji の代表作“glart”シリーズの製品です。「美術館に展示されるようなイメージを目指した」と菅野裕樹社長が語るように、機能性ばかりでなくアートとしての美しさにもこだわっています。

完成度の高さという点ではまず、本物のガラスを使ったステンドグラス風のデザイン。この薄さの強化ガラスを実現するために、共同開発したガラスメーカーと約2年の時間をかけたといいます。さらには工程数の多さや、縫製においても革のギリギリ端を縫う難しさなどから、外部の縫製会社から断られ、ベテランの革職人にも断念されたとか。ミシンを改造するなどして自社の工房で縫製方法を獲得しました。

手にしたユーザーからは「使っていない時は棚に立て掛けてオブジェのように楽しんでいます」という声が届けられたり、スマホケースが届いたその日のうちに、“glart”シリーズの全ラインナップを購入した方もいたとか。自社のオンラインショップのほか、セレクトショップやバッグの専門店で取り扱われており、ユニークなのはアンティークドアの専門店にも置かれていることでしょう。「バッグメーカーという枠にはまらず、マクロな視点でものづくりを展開していきたい」と菅野社長は語っています。

株式会社 waji

幼い頃から水彩画教室でアートに親しみ、国際文化を専攻していた大学時代には世界各地を巡って少数民族の伝統芸術に触れていたという菅野裕樹社長が2016年に設立。ものづくりのプロ集団として、自社内に製造機能を持つことと、他に真似できないオリジナルな表現にこだわっています。一方で、職人の手仕事を残しながら製造ラインに乗せることで、手の届きやすい価格帯を実現させました。この夏にスタートした、ものづくりで保護猫を支援するプロジェクト「aoneco」では、2ヶ月先の分まで製品が完売したとか。現在は、メイド・イン・ジャパンの誇りを胸に、そしてその責任を感じながら海外へ販路を拡大中です。

代表者名／代表取締役 菅野 裕樹

本社／堺市中区土師町5-8-8

TEL／072-206-0127

設立／2016年

資本金／300万円

従業員数／10名

事業内容／鞆、服飾小物、シザーケース
の企画製造販売

(株) waji
ホームページ



堺に活気を、ものづくり応援マガジン

堺のものづくりから生まれた逸品

SAKAIの傑作

リアルガラスと本革の融合
アンティークドアをデザイン

株式会社 waji

記事は次ページへ続きます▶▶

2021年9月末~12月末頃まで堺市産業振興
センター1F「さかいモノてらす」で展示予定